

弓具の取り扱い

2014/5/19

弓、弦、握り

・弓肥

的中定規で測って15cmにすれば良いと言われている。しかし弓の形は弓それぞれ…。
弓の上関板に平行になるような高さにする。

・中仕掛け

中仕掛けはつがえる部分より上を2cm、下を8cmになるように作る。これより長くならないように気を付ける。

この時下の部分の太さが大切で、目安として取り掛けた時にかかけの溝が埋まる程度の太さに作る。

・弦張りにおける注意点

弦張りでは、左手は握りではなく握りの下を持ち、右手は下関板の辺りを持つ。

また、左手を押すのではなく右手を引いて弦を張る。左手はつかえ棒のようにすれば良い。

・入木と出木

関板の部分では弦は中央にあり、握りの部分では弦は弓の右側にきている状態を入木といい、握りの部分では弓の左側にきている状態を出木という。通常弓は入木である。

・弓の置く向き

弓袋には、弓袋の紐の部分が下になるように弓を入れる。

レザーにはレザーの口の部分が上になるように弓を入れる。

・管理

弓は湿気や火気に弱いため、管理方法には十分注意する。

雨天時に運ぶ時は濡れないように気を付ける。

弓袋やレザーに入れてあったとしても直射日光は避け、試合や審査などでは置く場所に充分注意する。

※弓が床に置いてある場合などにおいて、弓をまたいではいけない。握りを作る時などに特に注意する。

矢

・管理

矢の羽が雨などで濡れた時はすぐにドライヤーなどで乾かす。

・矢の置き方

屋内では羽根が下になるように置き、屋外では羽根が上になるように置く。

※矢を持って走ってはいけない。特に矢取りの際に注意する。

矢取りの際は芝には入らずに矢取り道を通るようにする。

かけ

・管理

乾燥した所に置き、汗のついた時などは日陰の風通しの良いところで乾かす。ただし、日光や火気で直接乾かしたり、乾燥材を多用しすぎるとしなやかさを失ったり固くひび割れたりするので気を付ける。ドライヤーを使う際は、強すぎたり近すぎないように気を付ける。

手首の部分にしわが寄らないようにする。

危険防止

2014/5/19

巻き藁

- ・巻き藁の脇を通過して男子更衣室に行く際は、射手が打ち起こす以前に通過する。
- ・巻き藁で矢を番えている人がいたら射手と巻き藁の間を通過してはいけません。
- ・巻き藁場で、前後の人が引いている間は自分の巻き藁矢を抜きに行ってはならない。

射場

- ・矢道に行く場合は、射場で取り懸けている人がいないことを確認して手を叩いてから行く。
- ・取り懸けている人がいたら本座より前には入らない。

服装

- ・弓を引く時は装飾品（ネックレス、腕時計、ピアス等）や、マスクを外す。
- ・ボタン付きのシャツなどで弓を引く時は、胸当てを付ける。

看的小屋

- ・行射中は看的小屋寄りの矢道横には入らない。
- ・部活時間中は、記録係が赤旗を挙げない限り外に出てはいけません。